



淡路島に「エコロジカル・モデルハウス」と呼ぶにふさわしい住まいがある。家族は大阪の大学に勤務するYさんと夫婦と子供さん2人。日本では戦前まで当たり前に行なわれてきた自然農法により、野菜や果物を栽培する自給自足の生活を行ない、しかも使用するエネルギーのほとんどは太陽光など自然から先端技術を用いてまかなわれる。さらに省エネルギー性と耐久性の高い日本で初めての「2重構造ログハウス」の採用。日本人のかつての暮しと未来の技術がこの家造りで見事に交差して、ニューライフスタイルを生み出している。

淡路のエコハウスに日本人の暮らしの原点と未来が見える

司馬遼太郎が淡路島の家づくりについて「淡路の家道楽」として紹介しているように、淡路ではどこでも瓦などに贅を凝らした家づくりが目につく。群生する竹林の山ふところに8年前新居を構えたYさんの家も、地元淡路の特注瓦を自ら考案、ログ部材を直接仕入れるなど、オーナーが全ての業者を発注する（直営）方式が取られた。

- ここではオーナーが理想とする住宅をエコハウス「むらトピア」と命名。自分の目指す家造りを基本思想としてまとめ、これを実現するため、専門家を一堂に集めそれぞれのもつ技術や考え方についてプレゼンテーションを行ってもらい、Yさんの理想の家を関係者が全員で作り上げることスタートした。
- 設計思想は、「100年にわたって快適な住環境を継続的に提供でき、しかも地球環境に優しい自立した家づくり」というもの。
- 具体的には
- ① 耐久性・気密性・リサイクル性に優れたログハウスを構造とする
 - ② 家族のため、さらに座禅瞑想のできる南面の広いリビングの配置
 - ③ 安らぎ、コミュニケーションのためのサウナ室の設置
 - ④ どの部屋からでもインターネットが可能なLANの配置
 - ⑤ エネルギーの自立を目指した太陽エネルギーの活用
 - ⑥ そのほか利用可能な適性技術を積極的に活用する、など。

ログハウスの構造としては、フィンランドの工場でもミリ単位まで正確にマシンカットした角ログを「2重壁構造」で積み上げる日本初の試み。これにより強度、耐久性に加え屋根瓦の重さにも長期にわたってたえられる構造となった。

